

## 理科ワーキンググループにおける検討事項

1. 理科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・理科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた理科において育成すべき資質・能力の系統性について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

# 理科教育のイメージ (20160420案)

## 【高等学校】

《発展: explore science》 (Especially Science for Interested students: 世界をリードする人材として)

- 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
- 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。(理科, 理数探究(仮称))

《応用: advanced science》 (Science for Interested students: 科学技術立国としての日本を支える人材として)

- 自然の事物・現象について、科学的に探究する能力と態度を養うとともに、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力の育成を図る。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

《基礎: basic science》 (Science for All students: 善良な市民として)

- 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、意思決定を行うことができる力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
- ③自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- 中学校で身に付けた資質・能力を活用して、科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

## 【中学校】

○ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。

- ①概念や原理・法則の基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、得られた結果を分析・解釈する力を養う。
- ③自然を敬い、自然の事物・現象にすすんでかかわり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。

● 小学校で身に付けた、比較・分類、関係付け、条件制御などの資質・能力をさらに高め、自然現象の把握、問題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。  
例えば、1年: 自然の事物・現象に導入して、その中から問題を見いだす。2年: 解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年: 探究の過程を振り返り、その妥当性を検討する。

## 【小学校】

○ 自然の事物・現象について、問題を見いだし、より妥当な考えを導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。

- ①自然の事物・現象についての理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②見通しをもって的確に観察・実験などを行い、問題解決の能力を養う。
- ③自然を大切にし、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度、妥当性を検討する態度を養う。

● 観察・実験の結果を整理し考察し表現する態度を養う。また、日常生活や他教科との関連を図る。

● 問題解決の能力、例えば、3年: 差異点や共通点に気づき問題を思いだす力、4年: 既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年: 質的変化や量的変化、時間的変化に着目して解決の方法を発想する力、6年: 要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。

(小学校低学年)

例えば、【生活科】

○ 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気づいたりすることができ

○ 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりとして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。

○ 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

○ 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

## 【幼稚園】

(教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議)

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気づいたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむように、友達と考えを思い合わせたりして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。

・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にすることを大切にする。



理科

知識や技能

思考力・判断力・表現力等

学びに向かう力、人間性等

資質・能力の育成のために重視すべき学習過程等の例

<選択科目>  
 ●知識・技能の深化  
 ●高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解

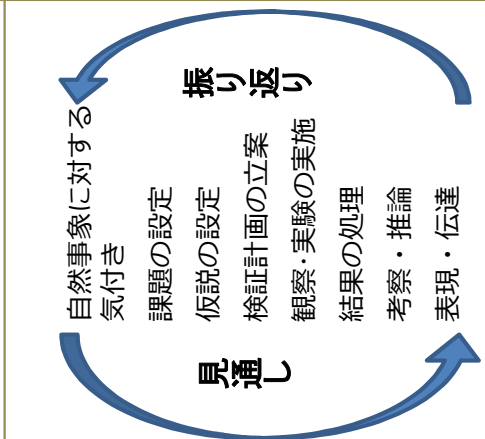
●科学的な探究能力(論理的・分析的・統合的に考察する力)  
 ●新たなものを創造しようとする力

●果敢に挑戦する態度  
 ●科学的に探究する態度  
 ●科学に対する倫理的な態度

<必修科目>  
 ●高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解  
 ●科学的探究についての理解  
 ●探究のために必要な観察・実験等の技能

●科学的な見方や考え方, 自然に対する多面的なものの見方  
 ●自然の事象を目的意識を持って観察・実験し, 科学的に探究したり, 科学的な根拠をもとに表現したりする力

●自然の事象・現象に対する畏敬の念  
 ●諦めずに挑戦する態度  
 ●日常生活との関連, 科学の必要性や有用性の認識  
 ●科学的根拠に基づき, 多面的, 総合的に判断する態度  
 ●中学校で身に付けた探究する能力などを活用しようとする態度

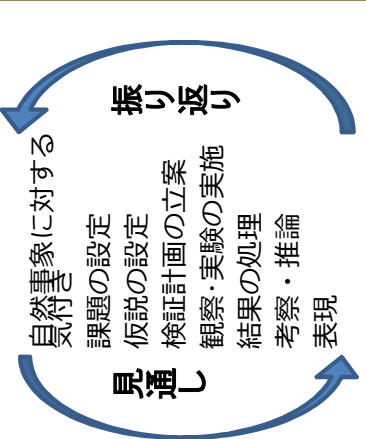


高等学校

○中学校理科における概念や原理・法則の基本的な理解  
 ○科学的探究についての基本的な理解  
 ○探究のために必要な観察・実験等の基礎的な技能(安全への配慮, 器具などの操作, 測定の方法, データの記録・処理等)

○自然事象の中に問題を見いだして仮説を設定する力  
 ○計画を立て, 目的意識をもって観察・実験する力  
 ○得られた結果を分析して解釈する力  
 ○科学的に探究する力と科学的な根拠をもとに表現する力  
 ○探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力

○自然を敬い, 自然の事象・現象にすぐんがかかわる態度  
 ○粘り強く挑戦する態度  
 ○日常生活との関連, 科学することの面白さや有用性の気付き  
 ○科学的根拠に基づき的確に判断する態度  
 ○小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度

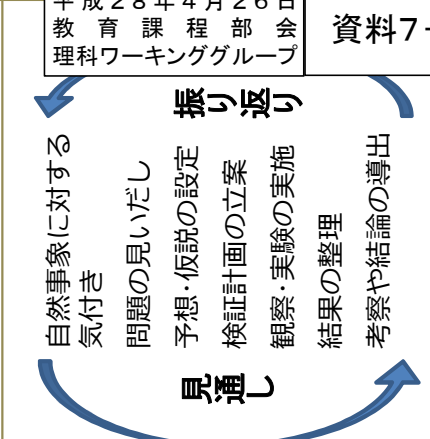


中学校

■自然事象に関する性質や基本的な概念, 規則性などの体系的な理解  
 ■理科を学ぶ意義の理解  
 ■科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等器具などの操縦(安全への配慮, データの記録等)

(各学年で主に育てたい力)  
 6年: 自然の事象・現象の变化や働きについてその要因や規則性, 関係性を多面的に分析し考察したり, より妥当な考えをつくりだす力  
 5年: 予想や仮説などをとくに質的変化や量的変化, 時間的変化に着目して解決の方法を着想する力  
 4年: 見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を着想する力  
 3年: 比較を通して自然の事象・現象の差異点や共通点に気付き問題を発見する力

■自然に親しむ態度  
 ■失敗してもくじけずに挑戦する態度  
 ■科学することの面白さ  
 ■科学的な根拠に基づき判断する態度  
 ■問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度  
 ■知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度  
 ■多面的, 総合的な視点から自分の考えを改善する力



小学校

平成28年4月26日  
 養育課 種部 抄  
 福登ワーキンググループ

資料7-2

自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること

高等学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること
中学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること
小学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、問題解決の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること

# 理科の各領域における特徴的な見方 (案)

- 1 科学の目的  
科学の目的は、自然事象を説明できる法則や理論を構築していくこと
- 2 理科の各領域における特徴的な見方を考える前提：法則や理論の構築という視点から整理することが必要

表 1 理科の各領域における特徴的な見方

		領域			
		エネルギー	粒子	生命	地球
見方・考え方		自然の事象・現象を主として <u>量</u> 的・関係的な視点で捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	自然の事象・現象を主として <u>質</u> 的・実体的な視点で捉える * 中学校から実体はあるが見えない(不可視)レベルの原子, 分子レベルで事象を捉える * 高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事象・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える * 「分子～細胞～個体～生態系レベル」の階層性があり, 小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる	地球や宇宙に関する自然の事象・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える * 「身のまわり～地球～宇宙レベル」の階層性があり, 小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる
		学校段階の違い (内容の階層性の広がり)			
小学校		「見える (可視) レベル」	「物レベル」	「個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) レベル」
中学校		「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物～物質レベル」	「細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球周辺) レベル」
高等学校		「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物質レベル」(マクロとミクロの視点)	「分子～細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球周辺) ～宇宙レベル」



表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

20160329

		領域			
		エネルギー	粒子	生命	地球
見方	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：豆電球の明るさについて、電池の数(量)や直列・並列つなぎの関係で捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える 例：形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える 例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える 例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
	【対象を分節化しない】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える 例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)～地球(地球周辺)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
中学校	【対象を主に再現性が高いもの(エネルギー、粒子)と、主に再現性が低いもの(生命、地球)に分節化する】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える 例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える 例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)～地球(地球周辺)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える 例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える
	【対象をエネルギー、生命、地球に分節化する】	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉える 例：電気に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える 例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)～地球(地球周辺)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える

学習活動例(主体的な課題解決)\*1  
見通しと振り返りの例

理科における資質・能力の例\*2

協働的な学びの例\*3

課題の把握(発見)	<p>自然事象に対する気付き</p> <p>↓</p> <p>課題の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主体的に対象とかわらうとしたり、観察しようとする態度</li> <li>● 対象を観察し、必要な情報を抽出・収集する力</li> <li>● 抽出・収集した情報について、それらの関係性(共通点や相違点など)や傾向を見いだす力</li> </ul>	意見交換・議論
課題の探究(追究)	<p>仮説の設定</p> <p>見通し</p> <p>↓</p> <p>検証計画の立案</p> <p>↓</p> <p>観察・実験の実施*4</p> <p>↓</p> <p>結果の処理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 見通しを持ち、検証できる仮説を設定する力</li> <li>● 仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する力</li> <li>● 観察・実験の計画を評価・選択・決定する力</li> <li>● 観察・実験を実行する力</li> <li>● 観察・実験の結果を処理する力</li> </ul>	意見交換・議論  調査  意見交換・議論
課題の解決	<p>考察・推論</p> <p>振り返り</p> <p>↓</p> <p>表現・伝達</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観察・実験の結果を分析・解釈する力</li> <li>● 情報収集して仮説の妥当性を検討したり、考察したりする力</li> <li>● 全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりする力</li> <li>● 新たな知識やモデル等を創造したり、次の課題を発見したりする力</li> <li>● 事象や概念等に対する新たな知識を再構築したり、獲得したりする力</li> <li>● 学んだことを日常生活や社会に活用しようとする態度</li> <li>● 考察・推論したことや結論を発表したり、レポートにまとめたりする力</li> </ul>	意見交換・議論  研究発表 相互評価

次の探究のプロセス

\*1 探究の過程は、必ずしも一方の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。  
 \*2 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力や既習の知識・技能を活用する力が求められる。  
 \*3 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えられることが重要である。また、他者とのかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。  
 \*4 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。





## 芸術ワーキンググループにおける検討事項

1. 芸術系科目を通じて育成すべき資質・能力について
    - ・芸術系科目を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
    - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
      - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
      - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
      - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
    - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた芸術系科目において育成すべき資質・能力の系統性について
    - ・芸術系科目において育成すべき資質・能力と指導内容との関係について
  
  2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の指導等の改善充実の在り方について
  
  3. 資質・能力の育成のために重視すべき芸術系科目の評価の在り方について
  
  4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について
- ※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）
- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
  - ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
  - iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

## 【高等学校】芸術科（音楽Ⅰ）

- ◎ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化についての理解を深める資質・能力を育成する。
- ① 音楽の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫して表現意図を創造できるようにすることや、幅広く音楽のよさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を創造することができるようにする。
- ③ 音楽活動の喜びを味わい、我が国及び諸外国の様々な音楽と幅広く関わり、音や音楽を生活や社会に生かそうとして、生涯にわたり音楽を愛好する心情をもてるようにする。

## 【中学校】音楽科

- ◎ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばすとともに生活や社会の中の音や音楽の働きや音楽文化について理解を深め、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。
- ① 音楽の背景や構造と、曲想との関わり及び音楽の多様性について理解することや、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を捉え、音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさなどを味わって聴くことができるようにする。
- ③ 音楽活動の楽しさを体験することを通して、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに諸外国の音楽文化の多様性に気付き、音楽を愛好する心情をもてるようにする。

## 【小学校】音楽科

- ◎ 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方に基づいて、音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う資質・能力を育成する。
- ① 音楽的な特徴及び構造と、曲想との関わりについて理解することや、音楽表現をするための基礎的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 音楽の特徴を感じ取りながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさなどを見いだし味わって聴くことができるようにする。
- ③ 様々な音楽に親しみ、音楽を愛好する心情をもてるようにする。

## 【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせながら、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

# 図画工作科，美術科，芸術科（美術，工芸）における教育のイメージ （4月26日版）

平成28年4月26日  
教育課程部会  
芸術ワーキンググループ  
資料3-2

## 【高等学校】芸術科（美術 I）

◎ 美術の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，対象・事象を造形的な幅広い視点で捉えて創造的に考え，感性を高め，創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 造形要素の働きについて，創造活動を通して造形的な視点として理解することや，発想や構想したことを基に，意図に応じて表現方法を工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 主題を生成したり創造的に構想したりすることや，美術作品などの表現の工夫を捉えたり，美術文化を伝統的かつ創造的側面から幅広く捉えたりして，そのよさや美しさを感じ取り味わうなど，創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み，美術の創造活動の喜びを味わい，生活や社会の中の美術の働きや美術文化と幅広く関わり，生涯にわたり美術を愛好する心情をもてるようにする。

## 【中学校】美術科

◎ 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，対象・事象を造形的な視点で捉えて創造的に考え，感性を豊かにし，美術の基礎的な能力を伸ばすとともに生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め，豊かな情操を養う資質・能力を育成する。

- ① 形や色彩などの特徴について，創造活動を通して造形的な視点として理解したり，美術作品や文化遺産などについて造形的な特徴などから理解を深めたりすることや，発想や構想したことを基に，意図に応じて創意工夫して表す創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 豊かに発想や構想することや，造形的なよさや美しさを感じ取り味わったり，美術文化を伝統的かつ創造的側面から捉えたりするなど，創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の活動に取り組み，美術の創造活動の喜びを味わい，生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わり，美術を愛好する心情をもてるようにする。

## 【小学校】図画工作科

◎ 表現及び鑑賞の活動を通して，形や色、イメージなどと関わり創造的に考え，感性を動かさせながら，つくりだす喜びを味わうようにするとともに，造形的な創造活動の基礎的な能力を培い，豊かな情操を養う資質・能力を育成する。

- ① 形や色、材料や用具などについて理解することや，創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 豊かに発想や構想することや，作品などからよさや美しさなどを感じ取ることなど，創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現や鑑賞の活動に取り組み，つくりだす喜びを味わうことや，生活の中の様々な造形に親しむことができるようにする。

【幼稚園】（教育課程部会幼児教育部会において，本ワーキンググループでの議論を踏まえ，幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり，物の性質や仕組み等に気付いたり，予想したり，工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに，友達と考えを思い合わせるなどして，新しい考えを生み出す喜びを感じながら，よりよいものにするようになる。

5. 生活の中で心動かす出来事に触れ，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりして，表現する意欲が高まるようになる。

## 【高等学校】芸術科（工芸 I）

◎ 工芸の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，対象・事象を造形的な幅広い視点で捉えて創造的に考え，感性を高め，創造的な表現及び鑑賞の能力を伸ばすとともに生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化についての理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 造形要素の働きについて，創造活動を通して造形的な視点として理解することや，発想や構想したことを基に，意図に応じて吟味し創意工夫して制作する創造的な技能を身に付けることができるようにする。
- ② 心豊かに発想や構想することや，工芸作品などの表現の工夫を捉えたり，工芸の伝統と文化を創造的側面から幅広く捉えたりして，そのよさや美しさを感じ取り味わうなど，創造的に思考・判断できるようにする。
- ③ 主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組み，工芸の創造活動の喜びを味わい，生活や社会の中の工芸の働きや工芸の伝統と文化と幅広く関わり，生涯にわたり工芸を愛好する心情をもてるようにする。



## 【高等学校】芸術科（書道Ⅰ）

◎ 書道の幅広い創造的活動を通して、書を構成する要素とその関連から生み出される働きの視点で書を捉え、感性を高め、書写能力の向上を図り、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、生活や社会の中での文字と書の働きや、書の伝統と文化について書の特質に即して理解を深める資質・能力を育成する。

- ① 書の表現方法や形式、書表現の多様性などについて理解することや、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫して表すために、書の伝統に基づく効果的な書表現の技能を身に付けることができるようにする。
- ② 書のよさや美しさを感じ、自らの意図に基づいて構想し表現を工夫することや、書表現を創造的に味わったり、書の効用や作品の価値を考えたりして、書に対する見方や考え方を広げることができるようにする。
- ③ 書の創造的活動の喜びを味わい、表現と鑑賞の幅広い活動に主体的に取り組むとともに、文字や書の効用を生活や社会の中で生かし、書の伝統と文化に豊かに関わり、生涯にわたり書を愛好する心情をもてるようにする。

## 【中学校】国語科（書写）

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を社会生活に生かすとともに、文字文化について理解することができる。

## 【小学校】国語科（書写）

- ・文字を正しく整えて書くことができる。
- ・書写能力を日常生活や学習活動に生かすとともに、手書きの意義や文字の由来について理解することができる。

## 【幼児教育】

（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議）

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせながら、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。
- ・言葉を通して先生や友達と心を通わせ、絵本や物語などを親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付けるとともに、言葉による表現を楽しむようになる
- ・生活の中で心動かす出来事に触れ、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりして、表現する意欲が高まるようになる。

（国語科（必修教科目）

「現代の国語」(仮称)

- ・実社会・実生活に生かす内容や（履歴書等の社会的な文書や通信文などにおいて文字を効果的に書くことなど）

「言語文化」(仮称)

- ・多様な文字文化に関する内容（古典の作品と書体等とのかわりをもつことなど）



# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

平成28年4月26日  
教育課程部  
芸術ワーキンググループ  
参考資料1-1

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
小学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽的な特徴及び構造と、曲想との関わりについての理解、音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて<u>音楽活動を通じた理解</u> など</li> <li>・ 自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための基礎的な技能 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを</u>感じ取りながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図を見いだす力 など</li> <li>・ 音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどの</u>感じ取りながら、知識を得たり活用したりして、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え味わい、自分なりに音楽のよさなどを見いだす力 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ リズム感、旋律感など音楽の特性を感じ取る感性</li> <li>・ 協働して音楽活動する喜びの実感</li> <li>・ 音楽の学習に主体的に取り組む態度</li> <li>・ 音楽を愛好する心情</li> <li>・ 生活の中の様々な音や音楽への気付き</li> <li>・ 音楽経験を生活に生かし、生活を明るく潤いのあるものにする態度</li> <li>・ 我が国や諸外国の音楽に親しみ、それらを大切にする態度</li> <li>・ 美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul>

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
<p>中学校 音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の構造と曲想との関わり、及び音楽の背景と曲想との関わりやその多様性などの音楽文化について理解することや、<u>音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること</u> など</li> <li>・自分なりに音楽表現を創意工夫したり、思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付けること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識や技能を得たり活用したりして、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図を生み出すこと</u> など</li> <li>・音楽に対する感性を働かせ、<u>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知識を得たり活用したりして、音楽を自分なりに解釈したり、音楽と人々の暮らしなどとの関連から音楽を捉えたり、自分にとっての価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、音楽の意味や価値を生み出すこと</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・協働して音楽活動する喜びの自覚</li> <li>・音楽の学習に主体的に取り組みむ態度</li> </ul> <p>度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を愛好する心情</li> <li>・音環境への関心</li> <li>・音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度</li> <li>・我が国の音楽文化への愛着や、諸外国の様々な音楽に関わる態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> </ul> <p>など</p>

下線部は、「共通事項」と関連する箇所

# 小・中・高を通じ、音楽科、芸術科（音楽）において 育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
高等学校 芸術 （音楽）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽の構造と曲想との関わり、及び音楽の文 化的・歴史的背景と曲想との関わりや表現方 法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽 文化について理解することや、<u>音楽を形づ くついている要素及び音楽に関する用語や記号 などについて、音楽表現上の働きと関わらせ て理解すること</u> など</li> <li>・個性を生かした音楽表現の創意工夫をしたり、 表現意図を音楽で表現したりするための技能 を身に付けること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせ、<u>音楽を形づくついている要素を 知覚し、それらの働きを感受しながら、知識 や技能を得たり活用したりして音楽表現を創 意工夫し、楽曲の背景などと関わらせながら 表現意図を創造すること</u> など</li> <li>・感性を働かせ、<u>音楽を形づくついている要素を 知覚し、それらの働きを感受しながら、知識 を得たり活用したりして音楽を自分なりに解 釈したり、音楽と生活及び社会などとの関連 から音楽を捉えたり、自分や社会にとつての 価値を考えたりし、よさや美しさを味わい、 音楽の意味や価値を創造すること</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世 界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・協働して音楽活動する喜びの自覚</li> <li>・芸術としての音楽の学習に主体的に取り 組む態度</li> <li>・生涯にわたり音楽を愛好する 心情</li> <li>・よりよい音環境を求めめる態度</li> <li>・音楽によって生活や社会を明るく豊かな ものにする態度</li> <li>・我が国及び諸外国の音楽文化を尊重する 態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動す る、情感受豊かな心としての情操 など</li> </ul>
高等学校 音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関する専門的な知識及び音楽表現の技 能 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性を働かせ、音楽を分析的かつ総体的に捉 え、根拠をもつて解釈し、明確な表現意図を もつたり、音楽作品や演奏などについて批評 する能力を高めたりして、音楽の社会的・文 化的な意味や価値から芸術文化の発展につい て考え、創造すること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音や音楽のよさや美しさなどの質的な世 界を価値あるものとして感じ取る感性</li> <li>・音楽文化の発展と創造に寄与する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動す る、情感受豊かな心としての情操 など</li> </ul>

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
小学校 図画工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色などの造形的な特徴や、材料や用具の特徴、作品のことなどについての、造形的な創造活動を通じた理解。</li> <li>・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせたり経験を生かしたりしながら、<u>形や色</u>などの造形的な特徴を捉えるときにも<u>自分のイメージをもつ</u>などして、<u>表したいこと</u>に合わせて材料や用具を使い、<u>表し方を工夫</u>するなどの創造的な技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら、<u>形や色</u>などの造形的な特徴を捉えるときにも<u>自分のイメージをもつ</u>などして、<u>表したいこと</u>を<u>発想</u>したり、<u>形や色、用途</u>などを考えながら、<u>表し方を構想</u>したりする力。</li> <li>・感性や想像力、手や体全体の感覚などを働かせながら、<u>形や色</u>などの造形的な特徴を捉えるときにも<u>自分のイメージをもつ</u>などして、<u>表したいこと</u>を<u>発想</u>したり、<u>形や色、用途</u>などを考えながら、<u>表し方を構想</u>したりする力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な対象や事象を心に感じ取る感性</li> <li>・感性を働かせながら味わう、つくりだす喜び</li> <li>・造形的な創造活動に主体的に関わる態度</li> <li>・<u>形や色</u>などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感受豊かな心としての情操</li> </ul>

下線部は、〔共通事項〕と関連する箇所



# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
<p>中学校 美術</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や色彩，材料，光などの性質や，それらがもたらす感情などの特徴について，創造活動を通して造形的な視点として実感的に理解したり，美術作品，文化遺産などについて造形的な特徴から作風などを理解したりすること。</li> <li>など</li> <li>・感性や造形感覚を働かせ，形や色彩などの表し方のコツをつかみ，意図や自己の捉えたイメージなどに応じて，形や色彩，材料，用具の特性を生かしたり，新たな表現方法を工夫したりすることや，見通しをもって表したりするなどの創造的な技能を身に付けること。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や想像力を働かせ，造形的な視点で対象・事象を捉えたり，形や色彩の特徴などを基にイメージを捉えたりするなどして，主題を生み出したり豊かに発想したりし，よさや美しさなどを考え創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>など</li> <li>・感性や想像力を働かせ，造形的な視点で対象・事象を捉えたり，形や色彩の特徴などを基にイメージを捉えたりするなどして，身の回りの造形や美術作品についての見方や感じ方を深めたり，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きを捉えるとともに，美術文化を伝統的かつ創造的側面から捉えたりして，そのよさや美しさを感じ取り味わうこと。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>・美術の創造活動の喜び</li> <li>・美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>・美術を愛好する心情</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して，生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>・美術文化の継承と創造への関心</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul>

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
高等学校 芸術 科（美術）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素の働きなどについて、創造活動を通して造形的な視点として実感的に理解したり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりすること。</li> <li>など</li> <li>・感性や美的感覚、造形感覚などを豊かに働かせ、意図や自己の捉えたイメージなどに応じて、造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を創意工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けること。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や美的感覚、想像力を豊かに働かせ、造形的な視点で対象・事象を幅広く捉えたり、造形要素の特徴などを基にイメージを捉えたりするなどして、主題を生成し、表現形式などの特性や造形要素の働きなどを考え、創造的な表現の構想を練ること。</li> <li>など</li> <li>・感性や美的感覚、想像力を豊かに働かせ、造形的な視点で対象・事象を幅広く捉えたり、造形要素の特徴などを基にイメージを捉えたりするなどして、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きを捉えるとともに、美術文化を伝統的かつ創造的側面から幅広く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わうこと。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>・美術の創造活動の喜び</li> <li>・芸術としての美術の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>・生涯にわたり美術を愛好する心情</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>・美術文化を尊重する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul>
高等学校 美術科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術の関する専門的な知識及び創造的な技能</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や美的直感力、想像力を豊かに働かせ、個性豊かな発想や構想をしたり、美術作品や文化財などについて批評する能力を高めたりして、地域や社会全般にわたる芸術文化の発展について考え、創造すること。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>・美術文化の発展と創造に寄与する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul>

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容

# 小・中・高を通じ、図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸） において、育成すべき資質・能力の整理（検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの
高等学校 芸術 (工芸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造形要素の働きなどについて、創造活動を通して<u>造形的な視点</u>として実感的に理解したり、工芸作品、伝統工芸などについて<u>造形的な特徴</u>から工芸の特質などを理解したりすること。</li> <li>など</li> <li>・感性や美的感覚、造形感覚などを豊かに働かせ、意図や自己の捉えたイメージなどに応じて、<u>造形要素</u>や素材、用具の特性を生かしたり、手順や技法などを吟味し創意工夫したりして制作するなどの創造的な技能を身に付けること。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感性や美的感覚，想像力を豊かに働かせ，<u>造形的な視点</u>で対象・事象を捉えたり，<u>造形要素の特徴</u>などを基にイメージを捉えたりするなどして，心豊かに発想し，用と美の調和や<u>造形要素の働き</u>などを考え，創造的な制作の構想を練ること。</li> <li>など</li> <li>・感性や美的感覚，想像力を豊かに働かせ，<u>造形的な視点</u>で対象・事象を捉えたり，<u>造形要素の特徴</u>などを基にイメージを捉えたりするなどして，工芸作品などを様々な観点から鑑賞して，心豊かな生き方に関わる工芸の働きを捉えるとともに，工芸の伝統と文化を創造的側面から幅広く捉え，そのよさや美しさを創造的に味わうこと。</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な対象・事象からよさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性</li> <li>・工芸の創造活動の喜び</li> <li>・芸術としての工芸の創造活動に主体的に取り組む態度</li> <li>・生涯にわたり工芸を愛好する心情</li> <li>・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度</li> <li>・工芸の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>・美しいものや優れたものに接して感動する，情感豊かな心としての情操</li> <li>など</li> </ul>

# 芸術科（書道）において育成すべき資質・能力の整理 （検討のたたき台）

	個別の知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等 <small>情意、態度等に関わるもの</small>
高等学校 芸術 （書道）	<ul style="list-style-type: none"> <li>書を構成する要素とその表現効果の視点から、表現方法、形式、書表現の多様性などについて理解したり、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について書の特質に即して理解したりすること など</li> <li>感性を働かせて、意図に基づいた創造的な表現を構想し工夫するために、用具・用材の特徴を理解し、書の伝統に基づき効果的な書表現の技能を身に付けること など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書によさや美しさを感じ、書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えるなどして、感性を働かせながら、自らの思いや意図に基づいて構想し、表現を工夫すること など</li> <li>書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉えるなどして、<u>文字や芸術としての書の伝統と文化を、歴史的背景や諸文化との関連などから深く捉えたりして、書の効用や作品の価値を考え、書に対する見方や考え方を広げたりすること</u> など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書の特質に根ざし、よさや美しさなどの価値や心情などを感じる</li> <li>書の創造的活動の喜び</li> <li>芸術としての書の創造的活動に主体的に取り組む態度</li> <li>生涯にわたり書を愛好する心情</li> <li>文字や書の効用を生活や社会の中で生かす態度</li> <li>書の伝統と文化を尊重する態度</li> <li>美しいものや優れたものに接して感動する、情感豊かな心としての情操 など</li> </ul>

下線部は、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容



# 芸術系教科・科目における見方・考え方(案)

平成28年4月26日  
教育課程部会  
芸術ワーキンググループ  
資料2

教科・科目	見方・考え方(案)
小学校 音楽科	音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、音楽によって喚起されるイメージや感情、生活などとの関わりについて考えること。
中学校 音楽科	音楽に対する感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を捉え、音楽的な特徴と、音楽によって喚起されるイメージや感情、生活や社会、文化などとの関わりについて考えること。
高等学校 芸術科(音楽)	感性を働かせて、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で音楽を幅広く捉え、音楽的な特徴と、音楽によって喚起されるイメージや感情、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景などとの関わりについて考えること。
小学校 図画工作科	感性や想像力などを働かせて、形や色などを捉えたり、自分のイメージをもったりしながら、他者や社会、自然や環境などとの多様な関係の中で、造形や、心豊かに生きることと造形との関わりについて、創造的に考えること。
中学校 美術科	感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術の関わりについて創造的に考えること。
高等学校 芸術科(美術)	感性や想像力を豊かに働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを幅広く捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと芸術としての美術の関わりについて創造的に考えること。
高等学校 芸術科(工芸)	感性や想像力を豊かに働かせて、形や色彩、素材などの造形的な視点で、対象やイメージを幅広く捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、伝統と文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと芸術としての工芸の関わりについて創造的に考えること。
高等学校 芸術科(書道)	感性を働かせて、書を構成する要素やその関連から生み出される働きの視点で芸術としての書を捉え、文字と書の伝統と文化、歴史的背景、生活や社会、諸文化などとの多様な関わりの中で、書の特質に即して考えること。

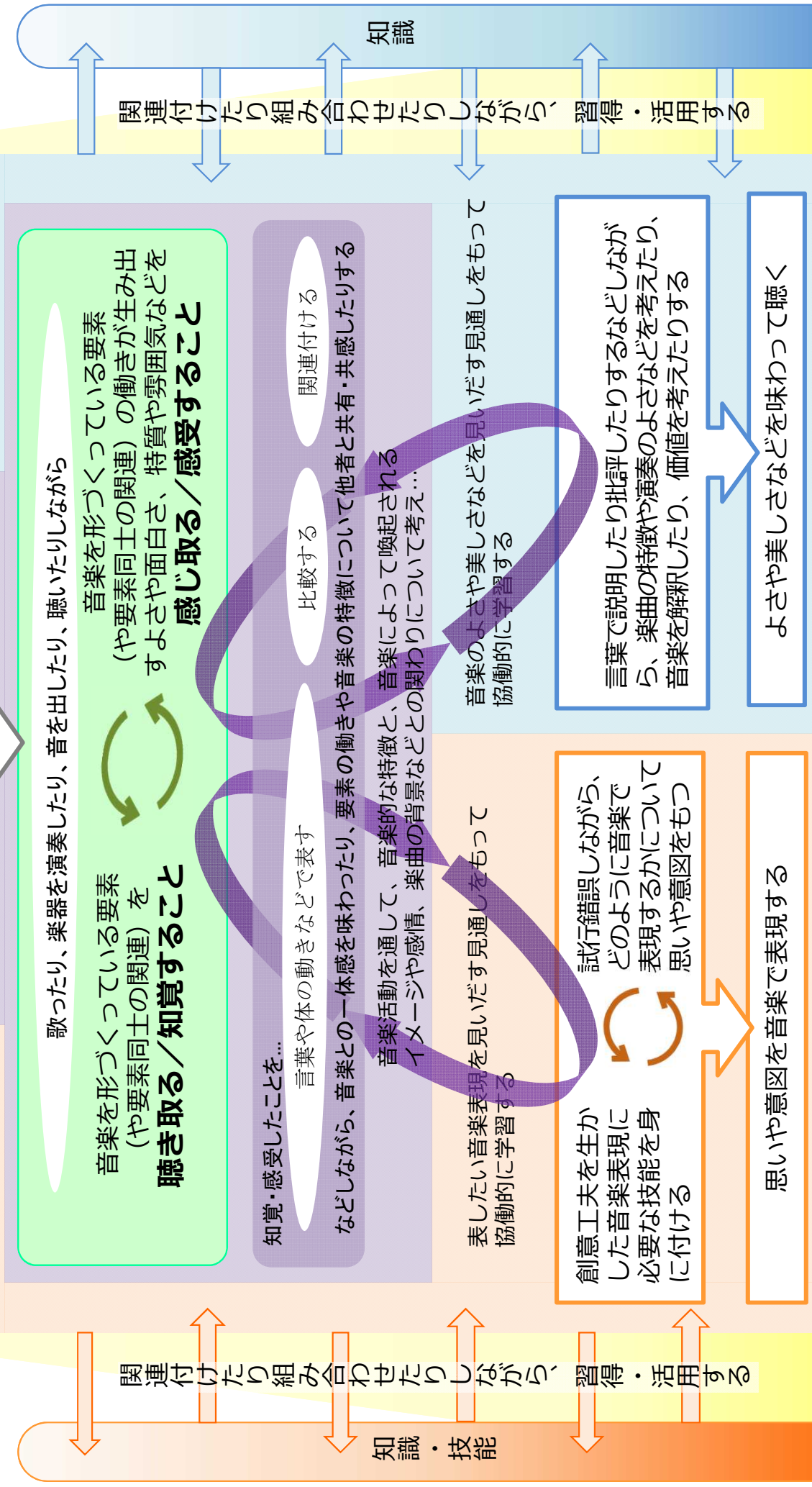
## 表現領域の学習

（主体的・創造的に音楽表現する）

## 音や音楽との出会い

## 鑑賞領域の学習

（主体的・創造的に鑑賞する）



生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを自覚する

豊かな情操の育成

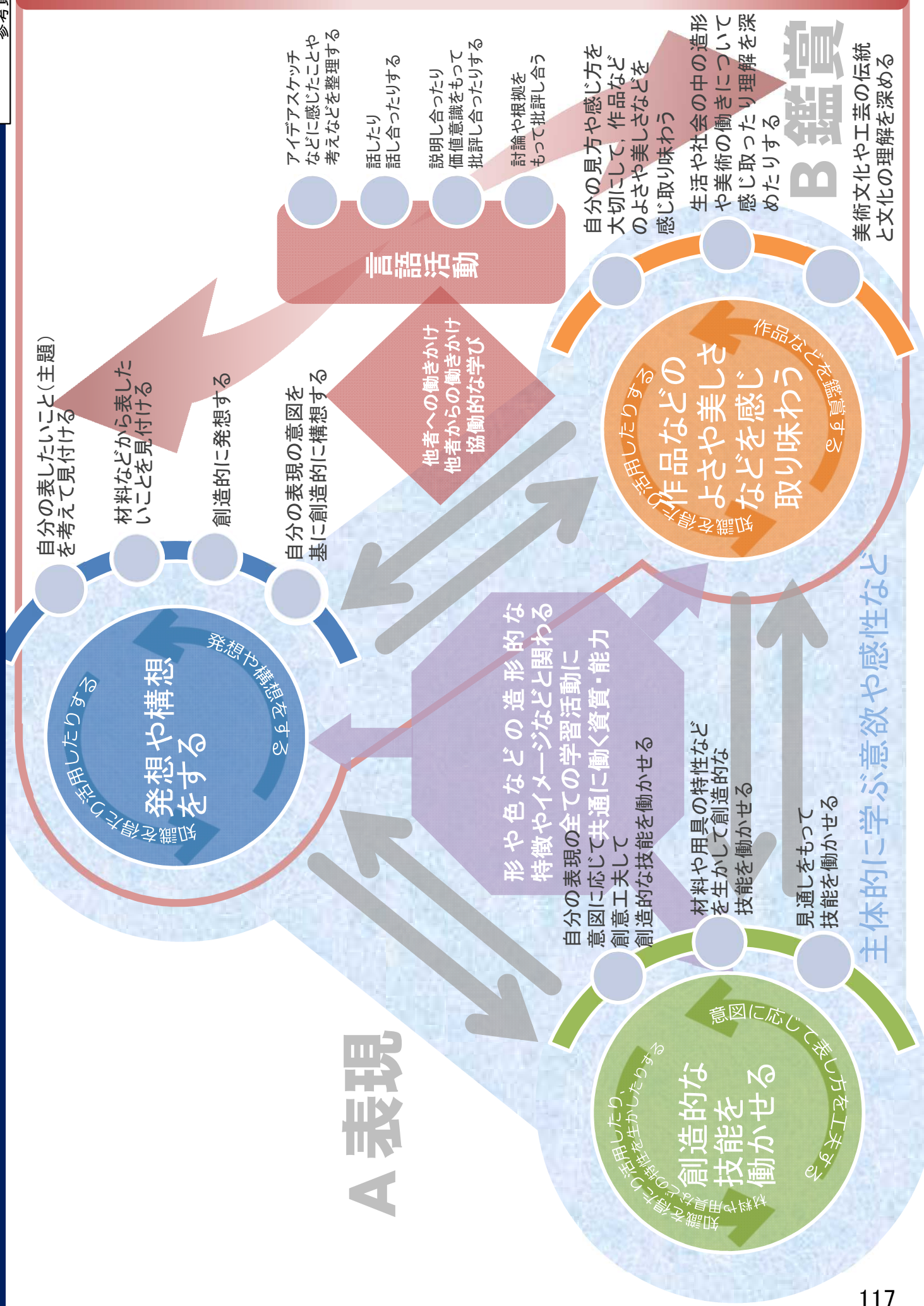
音楽に対する感性



図画工作科、美術科、芸術科（美術、工芸）における学習のプロセス（イメージ案）

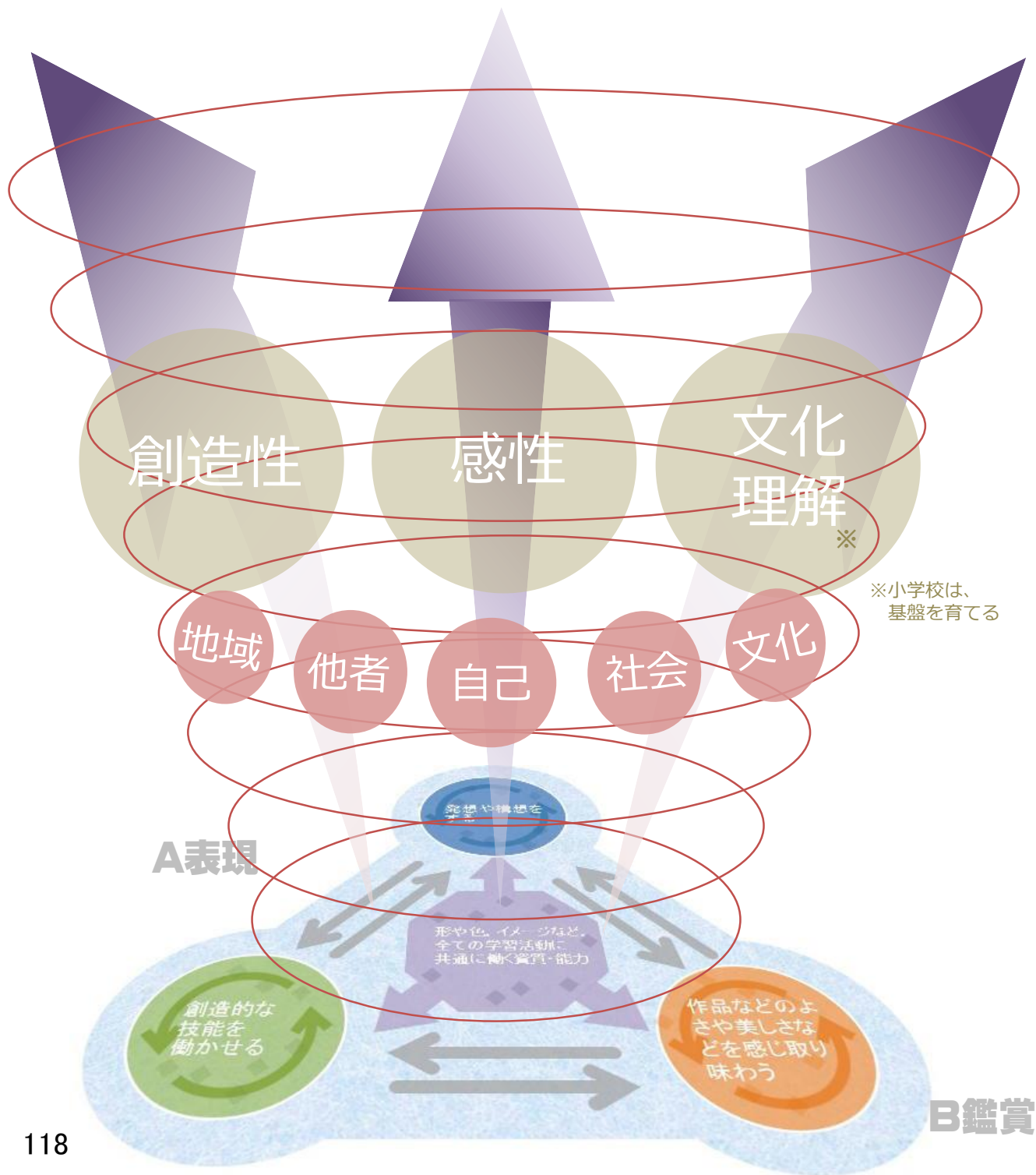
形や色、材料などを操作したり  
 用いたりして思考・判断する

形や色、イメージなどを基に  
 言葉を用いて思考・判断する



形や色、イメージなどの視点をもち、  
生活や社会と関わる資質・能力の育成

# 豊かな情操





**表現領域**

- ・用具・用材の特徴、表現方法を理解する
- ・書の伝統に基づいた効果的な表現の技能を身に付ける

**書表現との出会い**

書のよさや美しさを感じる

書を構成する要素とその表現効果の視点からの理解

書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉える

知識・技能

臨書活動・創作活動

- ・自らの思いや意図に基づいて、表現を構想する

【言語活動】

- ・書こうとする言葉を選んだり、生み出したたりする
- ・表現の意図を言葉で表す

書を構成する要素を関連させながら、自らの構想に基づき、表現を工夫する

書を構成する要素による思考・判断

知識

往還しながら深まっていく

- ・書表現を創造的に味わう
- ・文字や芸術としての書の伝統と文化について深く捉える

【言語活動】

- ・作品のよさや美しさを考えたり説明し合ったりする
- ・根拠をもって批評し合う

生活や社会の中での働きや書の効果を考え、書に対する見方や考え方を広げる

言葉による思考・判断

**鑑賞領域**

- ・書の形式や表現の多様性について理解する
- ・生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について理解する

豊かな情操、生活や社会における文字や書に豊かに関わる資質・能力の育成

小学校音楽科の評価の観点のイメージ（例）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例） ※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討	（例） 音楽的な特徴及び構造と、曲想との関わりについて、表現及び鑑賞の活動を通して理解している。 自分で音楽表現をしたり友達と一緒に音楽表現をしたり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするため基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくりたりしている。	（例） 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲の特徴や演奏のよさなどを考え、自分なりに音楽のよさなどを見いだし味わって聴いている。	（例） 音や音楽に親しみ、主体的・協動的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

## 中学校音楽科の評価の観点のイメージ（例）

<b>観点（例）</b> <small>※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討</small>	<b>知識・技能</b>	<b>思考・判断・表現</b>	<b>主体的に学習に取り組む態度</b>
各観点の趣旨のイメージ（例）  <small>※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討</small>	(例) 楽曲の背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、表現及び鑑賞の活動を通して理解している。  自分なりに音楽表現を創意工夫したり、自分の思いや意図を音楽で表現したりするための技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	(例) 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を創意工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている。  音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、解釈したり、自分や生活にとっての音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	(例) 音や音楽に親しみ、生活や社会と音や音楽との関わりに気付き、主体的・協働的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。

高等学校芸術科（音楽Ⅰ）の評価の観点のイメージ（例）

<p>観点（例）</p> <p>※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
<p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討</p>	<p>（例）</p> <p>楽曲の文化的・歴史的背景や構造と、曲想との関わり及びその多様性について、音楽活動を通して理解している。</p> <p>音楽表現の創意工夫をしたり、自分の表現意図を音楽で表現したりするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。</p>	<p>（例）</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を創意工夫し、表現意図をもっている。</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、楽曲や演奏を解釈したり、生活や社会における音楽の価値を考えたりして、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴いている。</p>	<p>（例）</p> <p>音楽活動の喜びを味わい、音や音楽を生活や社会に生かそうとし、主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に取り組もうとする。</p>



小学校図画工作科の評価の観点のイメージ（例）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例） ※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討	（例） 形や色などの造形的な特徴や材料や用具の特徴、作品のことなどについて、造形的な創造活動を通して理解している。 感覚や経験を生かしながら、表現したいことに合わせて材料や用具を使ったり、表現方を工夫して表現したりするなどの創造的な技能を身に付けている。	（例） 感じたことや材料などを基に、表現したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。 作品などの形や色などから、表現の面白さを捉えたり、よさや美しさなどを感じ取ったりしている。	（例） つくりだす喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

## 中学校美術科の評価の観点のイメージ（例）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討</p>	<p>（例）</p> <p>形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情などの特徴について、創造活動を通して造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から作風などを理解したりしている。</p> <p>感性や造形感覚を働かせ、意図に応じて、形や色彩、材料、用具の特性を生かした新たな表現方法の工夫をしたり、見通しをもって表したりするなどの創造的な技能を身に付けている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力を働かせ、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>感性や想像力を働かせ、身の回りの造形や美術作品についての見方や感じ方を深めたり、生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から捉えたりして、そのよさや美しさなどを感じ取り味わっている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力、造形感覚を働かせ、美術の創造活動の喜びを味わい、生活や社会の中の美術の働きや美術文化と豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。</p>

高等学校芸術科（美術Ⅰ）の評価の観点のイメージ（例）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討</p>	<p>（例）</p> <p>造形要素の働きなどについて、創造活動を通して造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、美術作品、文化遺産などについて造形的な特徴から表現の特質を理解したりしている。</p> <p>感性や造形感覚などを豊かに働かせ、意図に応じて造形要素や材料、用具の特性を生かしたり、表現方法を工夫したりして表すなどの創造的な技能を身に付けている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力を豊かに働かせ、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>感性や想像力を豊かに働かせ、美的体験を豊かにし、美術作品などを様々な観点から鑑賞して、心豊かな生き方に関わる美術の働きや、美術文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力、造形感覚を豊かに働かせ、美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や、生活や社会の中の美術の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>

高等学校芸術科（工芸Ⅰ）の評価の観点のイメージ（例）

<p>観点（例）</p> <p>※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討</p>	<p>知識・技能</p>	<p>思考・判断・表現</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p>
<p>各観点の趣旨のイメージ（例）</p> <p>※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討</p>	<p>（例）</p> <p>造形要素の働きなどについて、創造活動を通して造形的な視点として実感を伴う理解をしたり、工芸作品、伝統工芸などについて造形的な特徴から工芸の特質などを理解したりしている。</p> <p>感性や造形感覚などを豊かに働かせ、意図に応じて造形要素や素材、用具の特性を生かしたり、手順や技法などを吟味し創意工夫したりして制作するなどの創造的な技能を身に付けている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力を豊かに働かせ、心豊かな発想をし、用と美、よさや美しさなどを考え制作の構想を練ること。</p> <p>感性や想像力を豊かに働かせ、工芸作品などを様々な観点から鑑賞して、美的体験を豊かにし、心豊かな生き方に関わる工芸の働きや、工芸の伝統と文化を伝統的かつ創造的側面から深く捉え、そのよさや美しさを創造的に味わっている。</p>	<p>（例）</p> <p>感性や想像力、造形感覚を豊かに働かせ、工芸の創造活動の喜びを味わい、身近な生活や社会における工芸の働き及び美術文化と幅広く関わり、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。</p>



高等学校芸術科（書道Ⅰ）の評価の観点のイメージ（例）

観点（例） ※実際に設定する各教科の観点は、教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ（例） ※実際の記述は、各教科の特質、目標の示し方に合わせて検討	（例） 書を構成する要素やその表現効果、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化について、創造的な表現と鑑賞の活動を通して理解している。 用具・用材の特徴や書の表現方法などを理解し、書の伝統に基づいた効果的な書表現の技能を身に付けて表している。	（例） 書表現のよさや美しさ感受し、書を構成する要素とその関連から生み出される働きを捉え、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて豊かに構想し、効果的に表現を工夫している。 書を構成する要素とその関連から生み出される働きから書表現を捉え、そのよさや美しさを創造的に味わうとともに、文字や書の効用や作品の価値を考えたり、書の伝統と文化について深く捉えたりしている。	（例） 書の創造的活動の喜びを味わい、生活や社会の中での文字や書の働き、書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。

## 家庭、技術・家庭ワーキンググループにおける検討事項

1. 家庭、技術・家庭科を通じて育成すべき資質・能力について
  - ・家庭、技術・家庭科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
  - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
    - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
    - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
    - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
  - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力の系統性について
  - ・家庭、技術・家庭科において育成すべき資質・能力と指導内容の系統性について
  
2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の指導等の改善充実の在り方について
  
3. 資質・能力の育成のために重視すべき家庭、技術・家庭科の評価の在り方について
  
4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

## 社会

- 【高等学校】 共通教科
- ◇ 家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
    - 生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。
    - 生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。
    - 様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。
  - 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
  - ◎ 少子高齢化等の社会への変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、高年齢者に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。

## 【中学校】

- ◇ 家庭分野の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
  - 生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力を育成する。
  - 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◎ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。

## 地域

## 【小学校(高学年)】

- ◇ 家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。
  - 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。
  - 生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を育成する。
  - 家庭生活の大切さに気付き、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとすると実践的な態度を育成する。
- 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。
- ◎ 少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費・環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。

## 【小学校(低・中学年)】

- 基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科)
- 健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明らかな生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科)
- 日常生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点から踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動)
- 節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等

## 【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 幼稚園生活の中で満足感や充実感を持って自分のやりたいことに向かっ心と体を十分に働かせながら取り組み、見通しを持って自ら健康で安全な生活を作り出していきけるようになる。
- 家族を大切にしようとする気持ちを持ちつつ、いろいろな人と関わりながら、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に一層親しみをもちようになる。 等

	<p>個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p>	<p>思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)</p>	<p>学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか)</p>
<p>家庭 高等学校 (共通教科)</p>	<p><b>自立した生活者に必要な知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する技術についての知識・理解・技能</li> <li>・生涯の生活設計に関する知識・理解</li> <li>・各ライフステージに対応した衣食住に関する技術についての知識・理解・技能</li> <li>・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立に関する技術についての知識・理解・技能</li> </ul>	<p><b>生活の課題を解決するために、生涯を見通して生活を創造する能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について他の生活事象と関連づけ、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力</li> <li>・実習や観察・実験・調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力</li> <li>・他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p><b>共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする態度</li> <li>・主体的に地域社会と関わり、参画しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ味わい、豊かさを創造しようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承・創造しようとする態度</li> </ul>
<p>技術・家庭 中学校</p>	<p><b>生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の基本的な機能に関する知識・理解</li> <li>・家族、幼児、高齢者に関する技術についての知識・理解・技能</li> <li>・生活の自立に必要な衣食住に関する技術についての知識・理解・技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる技術についての知識・理解・技能</li> </ul>	<p><b>生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するために、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力</li> <li>・実習や観察・実験・調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりする力</li> <li>・他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p><b>地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を支える一員として生活をよりよくしようとする態度</li> <li>・地域の人々と関わり、協働しようとする態度</li> <li>・生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度</li> <li>・日本の生活文化を継承しようとする態度</li> </ul>
<p>家庭 小学校</p>	<p><b>日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家庭生活に関する知識・理解</li> <li>・生活の自立の基礎として必要な衣食住に関する知識・理解・技能</li> <li>・消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解・技能</li> </ul>	<p><b>生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決するために、生活をよりよくしようとする能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中から問題を見出し、課題を設定する力</li> <li>・生活課題について自分の生活経験と関連付け、多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力</li> <li>・実習や観察・実験・調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりする力</li> <li>・他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善する力</li> </ul>	<p><b>家族の一員として、生活をよりよくしようとする実践的な態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活を大切にする心情</li> <li>・家族や地域の人々と関わり、協力しようとする態度</li> <li>・生活を楽しくしようとする態度</li> <li>・日本の生活文化を大切にしようとする態度</li> </ul>

## 家庭科、技術・家庭科(家庭分野)における思考力・判断力、表現力等の育成イメージ（たたき台）

### ①生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する力

- ・ 家族・家庭や社会における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。
- ・ 日常生活の中から問題を見出し、課題を設定できる。

### ②生活課題について多角的に捉え、解決策を構想し、計画する力

- ・ 生活課題について他の生活事象と関連付け、生涯を見通して多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。
- ・ 生活課題について他の生活事象と関連付け、これからの生活を展望して多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。
- ・ 生活課題について自分の生活経験と関連付け、多角的に捉え、解決策を構想し、計画できる。

### ③実習や観察・実験の結果等について、考察したことを説明したり、発表したりする力

- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを科学的な根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、発表したりできる。
- ・ 実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく説明したり、発表したりできる。

### ④他者と意見交流し、計画・実践等について評価・改善する力

- ・ 他者の立場を考え、多様な意見や価値観を取り入れ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・ 他者の意見を聞き、自分の意見との相違点や共通点を踏まえ、計画・実践等について評価・改善できる。
- ・ 他者の思いや考えを聞いたり、自分の考えをわかりやすく伝えたりして計画・実践等について評価・改善できる。

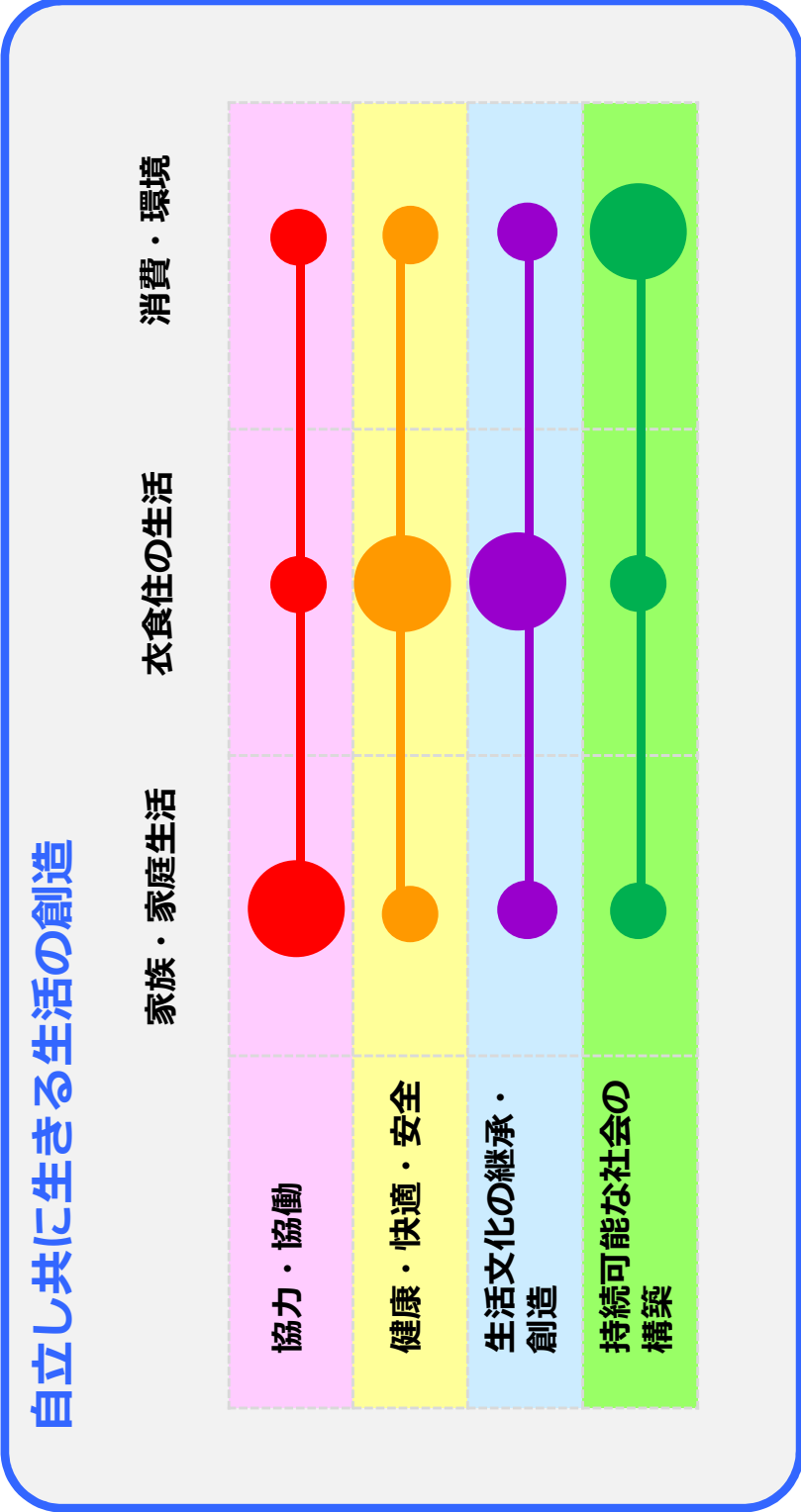
- ※ 上 : 主に高等学校段階
- 中央 : 主に中学校段階
- 下 : 主に小学校段階

※①～④のタイトルにも、各学校段階にも、家庭科であることがわかる文言を入れる。

※①と②の重なりを考慮、学習プロセスとの整合性を図る。



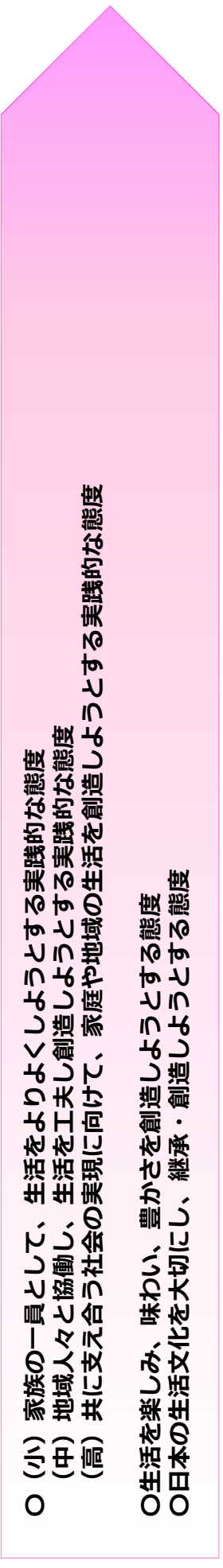
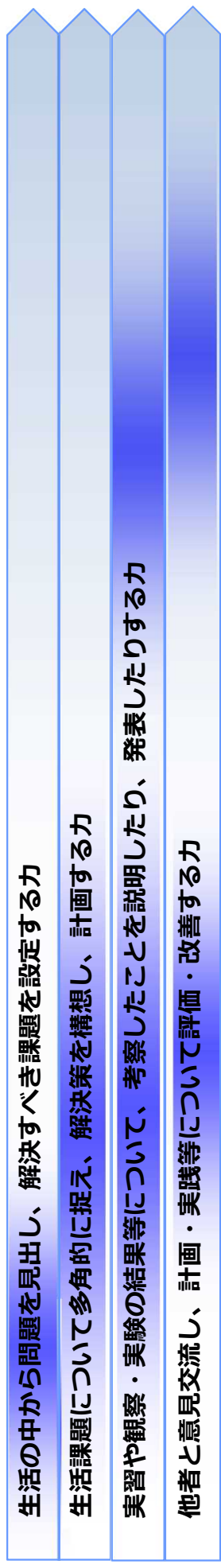
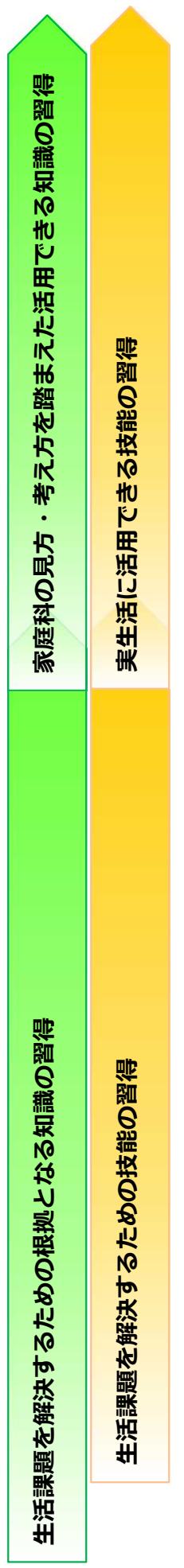
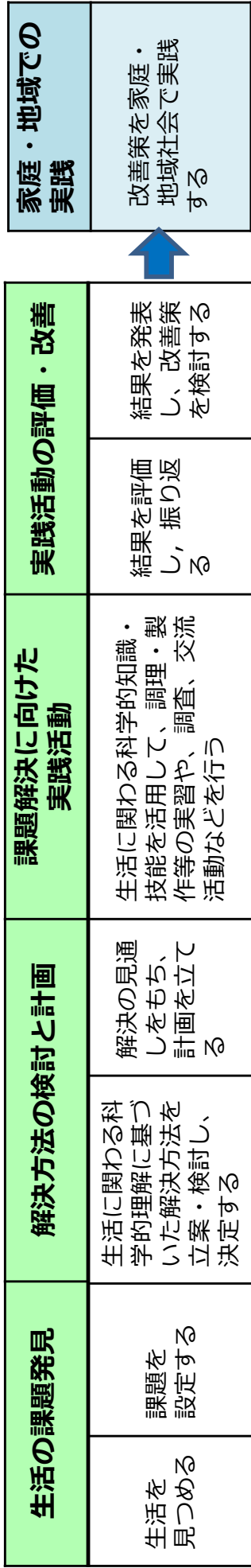
○家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。



※主として捉える見方・考え方については、大きい丸で示している。  
取上げる内容や題材構成等により、どのような見方・考え方を重視するかは異なる。  
また、学校段階によって扱うレベルも異なる。

# 家庭科、技術・家庭(家庭分野)の学習プロセス(たたき台)

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料11



主な学習過程及び重視する力

理解・  
技能

思考力・判断力・  
表現力

学びに向かう  
態度

【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】

※上記に示す各プロセスは例示であり、上例に限定されるものではないこと

# 小学校 家庭科の改訂の方向性（たたき台案）

## 現行学習指導要領

### A 家庭生活と家族

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 家庭生活と仕事
- (3) 家族や近隣の人々とのかかわり

### B 日常の食事と調理の基礎

- (1) 食事の役割
- (2) 栄養を考えた食事
- (3) 調理の基礎

### C 快適な衣服と住まい

- (1) 衣服の着用と手入れ
- (2) 快適な住まい方
- (3) 生活に役立つ物の製作

### D 身近な消費生活と環境

- (1) 物や金銭の使い方と買物
- (2) 環境に配慮した生活の工夫

## 検討事項

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める
- 第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定)  
家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
- 食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定)  
学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する
- 和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4)  
日本の伝統的な食文化
- 消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22)  
学校における消費者教育の推進
- 環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

## 今後の方向性(案)

### 目指す資質・能力等

#### ○ 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能

- ・ 家族・家庭生活に関する知識・理解
- ・ 衣食住に関する知識・理解、技能
- ・ 消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する知識・理解、技能

#### ○ 生活をよりよくしようと工夫する能力

生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力

#### ○ 家族の一員として生活をよりよくしようとすると実践的な態度

家庭生活の大切さに気付き、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようとすると実践的な態度

小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方や考え方を踏まえた内容の改善

## 内容

- 家族・家庭生活に関する内容
  - 少子高齢化に関する内容の改善
    - ・ 家族や地域の人々との関わり(異世代)、「家庭の仕事」への協力等、家庭生活と家族の大切さの理解に関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携)
  - 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

#### ● 衣食住の生活に関する内容

- 衣食住の生活に関する内容の改善
  - ・ 生活の自立の基礎を培うための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実
  - ・ 健康で安全な食生活のための食育の充実
- ・ 日本生活文化の大切さに気付く学習の充実
- 生活の科学的な理解の重視
- 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実

#### ● 身近な消費生活と環境に関する内容

- 持続可能な社会の構築に関する内容の改善
  - ・ 消費・環境に配慮した生活の仕方を工夫する内容の充実  
(実践的な学習は他教科等と連携)
- 家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実



# 中学校 技術・家庭科（家庭分野）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料12-2

## 現行学習指導要領

### A 家族・家庭と子どもの成長

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 家庭と家族関係
- (3) 幼児の生活と家族

### B 食生活と自立

- (1) 中学生の食生活と栄養
- (2) 日常食の献立と食品の選び方
- (3) 日常食の調理と地域の食文化

### C 衣生活・住生活と自立

- (1) 衣服の選択と手入れ
- (2) 住居の機能と住まい方
- (3) 衣生活、住生活などの生活の工夫

### D 身近な消費生活と環境

- (1) 家庭生活と消費
- (2) 家庭生活と環境

## 検討事項

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活現象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校教育を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活を設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める
- 第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定)  
家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
- 食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定)  
学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する
- 和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4)  
日本の伝統的な食文化
- 消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22)  
学校における消費者教育の推進
- 環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

## 今後の方向性(案)

### 目指す資質・能力等

- 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能
  - ・家庭の基本的な機能に関する知識・理解
  - ・家族、幼児、高齢者に関する技術についての知識・理解・技能
  - ・生活の自立に必要な衣食住に関する技術についての知識・理解・技能
  - ・消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための基礎となる技術についての知識・理解・技能

### ○これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力

生活の中から問題を見出し課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力

### ○地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度

自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度

小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭分野における見方や考え方を踏まえた内容の改善

## 内容

- 家族・家庭生活に関する内容
  - 少子高齢化に関する内容の改善
    - ・家庭の機能の理解や幼児、高齢者との交流等、家族や地域の人々との関わり、家庭生活と地域との関わりに関する内容の充実(実践的な学習は他教科等と連携)
  - 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

- 衣食住の生活に関する内容
  - 衣食住の生活に関する内容の改善
    - ・生活の自立を促すための基礎的な技能の確実な習得を図る学習の充実
    - ・健康で安全な食生活のための食育の充実
    - ・日本の生活文化の継承に係る学習の充実
  - 生活の科学的な理解の重視
  - 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

### ●身近な消費生活と環境に関する内容

- 持続可能な社会の構築に関する内容の改善
  - ・消費・環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎となる内容の充実
  - (実践的な学習は他教科等と連携)
- 家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

# 高等学校 家庭科（共通教科）の改訂の方向性（たたき台案）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・技術・家庭ワーキンググループ  
資料12-1-3

## 現行学習指導要領

### 家庭基礎(2単位)

- 1) 人の一生涯と家族・家庭及び福祉
- 2) 生活の自立及び消費と環境
- 3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

### 家庭総合(4単位)

- 1) 人の一生涯と家族・家庭
- 2) 子どもや高齢者とのかかわりと福祉
- 3) 生活における経済の計画と消費
- 4) 生活の科学と環境
- 5) 生涯の生活設計
- 6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

### 生活デザイン(4単位)

- 1) 人の一生涯と家族・家庭及び福祉
- 2) 消費や環境に配慮したライフスタイルの確立
- 3) 食生活の設計と創造
- 4) 衣生活の設計と創造
- 5) 住生活の設計と創造
- 6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

## 検討事項

### 家庭科の見方や考え方

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会を構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること

### 「論点整理」における指摘事項

- ・生活の科学的な理解
- ・生活課題を解決する能力と実践的な態度の育成
- ・小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力の明確化
- ・各学校段階を通じて、家庭や社会とのつながりを重視
- ・少子高齢社会、資源や環境に配慮したライフスタイルの確立や持続可能な社会づくりのための力、他者と共生し自立して生活する力、生涯を見通して生活設計し創造していく力の育成

### 関連する会議における提言等

- 少子化社会対策大綱(H27. 3. 20閣議決定)  
妊娠や家庭・家族の役割については、発達の段階に応じた適切な教育の推進を図る
- 高齢社会対策大綱(H24. 9. 7閣議決定)  
高齢社会に関する課題や高齢者に対する理解を深める
- 第3次男女共同参画基本計画(H22. 12. 17閣議決定) 家庭を築くことの重要性などについての指導の充実を図る
- 食育推進基本計画(H23. 3. 31食育推進会議決定)  
学校教育全体を通して食育を組織的・計画的に推進する
- 和食の無形文化遺産登録(H25. 12. 4)  
日本の伝統的な食文化
- 消費者教育の推進に関する法律(H24. 8. 22)  
学校における消費者教育の推進
- 環境基本計画(H24. 4. 27閣議決定)  
学校や社会におけるESDの理念に基づいた環境教育等の教育を推進する

## 今後の方向性(案)

### 目指す資質・能力等

#### ○自立した生活者に必要な知識・技能

- ・家族・家庭、乳幼児の子育て支援等や高齢者の生活支援等に関する技術についての知識・理解、技能
- ・生涯の生活設計に関する知識・理解
- ・各ライフステージに対応した衣食住に関する技術についての知識・理解、技能
- ・生活における経済の計画、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立に関する技術についての知識・理解、技能

#### ○生涯を見通して生活を創造する能力

生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力

#### ○家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて、家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度

### 小・中・高の系統性、既存の内容の関連性、家庭科における見方や考え方を踏まえた内容の改善

## 内容

### 必履修科目・単位

#### 2単位科目

- 少子高齢化に関する内容の改善  
・親の役割と子育て支援(乳児期)、高齢者の理解と生活支援技術の基礎、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実
- 衣食住の生活に関する内容の改善  
・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実)
- 生活の科学的な理解の一層の重視
- 持続可能な社会の構築に関する内容の改善  
・消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実

#### 4単位科目

- 少子高齢化に関する内容の改善  
・親の役割と子育て支援(乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション)に係る内容の充実(実習等)、高齢者の理解と生活支援技術、生涯の生活を設計するための意思決定等、少子高齢社会を支える実践力を育成するための内容の充実  
・乳児との触れ合い、子供とのコミュニケーション、高齢者の生活支援に係る内容の充実(実習等)
- 衣食住の生活に関する内容の改善  
・自立した生活者に必要な実践力を定着させる学習の充実(食育、食文化等の充実)  
・健康、安全等を考慮した衣食住の生活を総合的にマネジメントする力を育成するための内容の充実(実習等)  
・日本の生活文化の継承・創造に係る内容の充実(実習等)
- 生活の科学的な理解の一層の重視
- 持続可能な社会の構築に関する内容の改善  
・消費・環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定能力の育成を図る内容の充実  
・消費・環境に係る地域への働きかけなど社会参画力を育成するための内容の充実(実習等)
- 「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を一層充実



## 技術・家庭科（技術分野）における教育のイメージ（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭・家庭ワーキンググループ  
資料7-2

### 【高等学校】

（情報の共通履修科目）

○情報や情報技術の問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育てる

①情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決するための方法と情報社会についての理解と、情報技術を適切に活用するための技能を養う

②問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う

③情報を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度を養う

（職業に関する各教科・科目）

○各職業分野に関する知識と技術を習得させるとともに、各職業の社会的意義や役割を理解させる。

○各職業分野に関する課題（求められる職業能力の高度化、持続可能な社会の構築、グローバル化・少子高齢化等への対応）を発見し、職業人としての倫理観をもって、合理的かつ創造的に解決する能力を育成する。

○職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を育成する。

### 参考【中学校 技術・家庭科】

○技術・家庭科の見方や考え方を踏まえて、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。

・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、生活と技術との関わりについて理解を深める。

・問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して工夫し創造する能力を育成する。

・生活を充実向上するために進んで実践しようとする態度を育成する。

### 【中学校】

◇技術分野の見方や考え方を踏まえ、生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。

○生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。

○生活や社会における問題を、技術を選択、管理・運用、改良、応用するなどして、解決できる能力を育成する。

○よりよい生活や持続可能な社会を構築するために、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度を育成する。

●生活や社会における問題を見出し課題を設定した上で、解決方策が最適なものとなるよう設計・計画し、製作・育成を行うとともに、解決結果・解決過程を評価する学習活動を充実する。

◎技術の高度化とそれに伴うグローバル化や、産業構造の転換等の社会の変化に対応し、ものづくりや日本の伝統的な技術、技術革新及びそれを担う職業・産業への関心、生産などの経済的主体等として求められる働くことの意義の理解や粘り強く物事を前に進める態度、情報活用能力、知的財産を創造・保護・活用していこうとする態度、使用者の安全に配慮して設計・製作したりするなどの倫理観、安全な生活や社会づくりへの貢献等に関する学習を充実する。

### 【小学校】

○手や体全体の感覚等を働かせたり経験を活かしながら、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する（図画工作）

○身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、そのおもろさに気づく（生活）

○ものづくりの活動を通して、自然の事象・現象の性質や働き、規則性についての実感に伴った理解を図る（理科）

○道徳の内容との関連を踏まえ、情報モラルに関する指導（道徳）等

【幼児教育】（教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議）

○身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達と考えを思い合わせたりして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。

○自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象に関心への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。

技術で問題解決をする範囲と影響を及ぼす範囲

社会全体・地域環境・未来

生活範囲・地域環境・現在

※技術をまずは見つける

技術・家庭科（技術分野）において育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

	個別の知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力, 人間性等 情意, 態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
高等学校	<p>○生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・材料, 加工, エネルギー変換, 生物育成, 情報等の技術に用いられている科学的な原理・法則の知識</li> <li>・技術を安全・適切に管理・運用できる技能</li> <li>・技術の概念の理解</li> <li>・技術と生活や社会, 環境との関わりの理解</li> </ul>	<p>○生活や社会における問題を, 技術を選択, 管理・運用, 改良, 応用するなどして, 解決できる能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し, 解決すべき課題を設定する力</li> <li>・課題の解決策を条件を踏まえて構想し, 試行・試作等を通じて解決策を具体化(設計・計画)する力</li> <li>・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力</li> <li>・課題の解決策を製作図, 流れ図, 作業計画表等に表す力</li> </ul>	<p>○よりよい生活や持続可能な社会を構築するために, 適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで技術と関わろうとする態度</li> <li>・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって, 解決策を構想しようとする態度</li> <li>・自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度</li> <li>・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度, 技術に関わる倫理観, 粘り強く物事を前に進める態度</li> </ul>
中学校			
小学校			

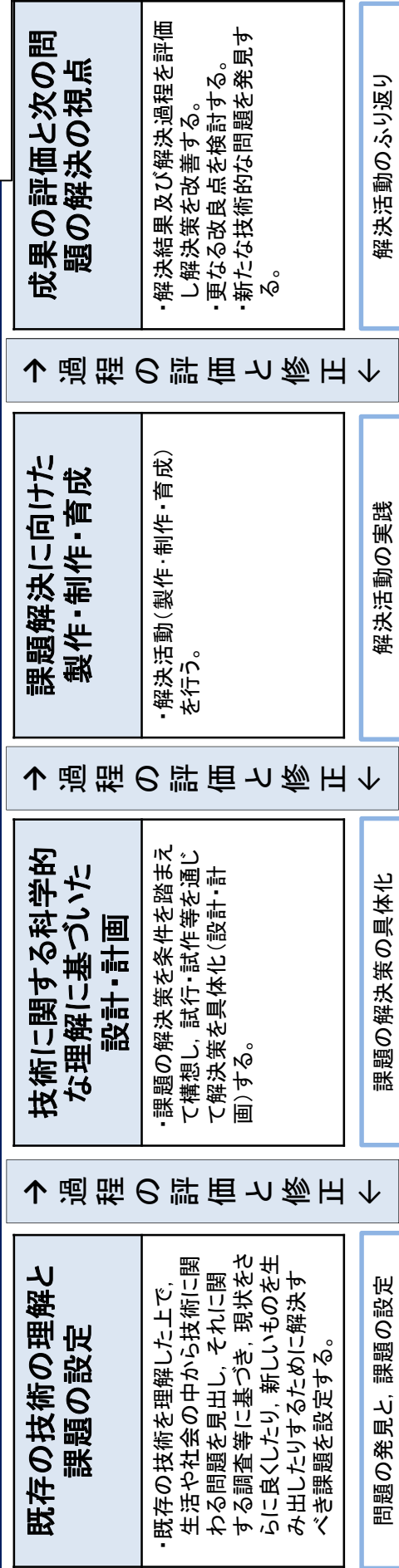
## 技術・家庭科（技術分野）の見方や考え方の整理（たたき台）

### 技術分野の見方や考え方：技術によって問題を解決する際の見方や考え方

	対象	見方	考え方
技術分野	生活や社会で利用されている技術について、	物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、	材料の生成・成形、エネルギーの変換・伝達、生物の育成環境、情報の処理手順等を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容A	材料の技術について	材料を構成する物質の特性や材料の組織に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料の生成方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
	加工の技術について	構造、加工の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、耐久性や機能、生産効率、環境への負荷、資源の有限性等を踏まえつつ	材料に必要な形状・寸法への成形方法、材料の構造を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容B	生物育成の技術について	育成する生物の成長、はたらき、生態の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時や消費する際の安全性、社会からの要求、生産のしくみ、環境への負荷、品質・収量等の効率面、生命倫理等を踏まえつつ	生物の育成環境の調節方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容C	エネルギー変換の技術について	電気、運動、物質の流れ、熱の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、出力、環境への負荷、省エネルギー等を踏まえつつ	エネルギーの変換、伝達、利用する方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。
内容D	情報の技術について	情報の表現、記録、計算の特性に着目するとともに、問題を見出し、解決するに当たり、倫理観をもち、使用時の安全性、社会からの要求、情報の倫理やセキュリティ、活用、管理、システム等を踏まえつつ	情報のデジタル化や計算化による処理の方法を評価し、最適なものとなるよう考察すること。

# 技術・家庭科（技術分野）の学習プロセスの例（たたき台）

平成28年4月13日教育課程部会  
家庭、技術・家庭ワーキンググループ  
資料15



【目指す資質・能力と学習評価の場面の例】 ※下記に示す各プロセスは例示であり、下例に限定されるものではないこと

知識・技能	○技術に用いられている科学的な原理・法則の知識	○技術の概念の理解、技術と生活や社会、環境との関わりの理解	○技術を安全・適切に管理・運用できる技能
	○生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力	○課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行・試作等を通じて解決策を具体化（設計・計画）する力	○課題の解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する力
思考力・判断力・表現力	○進んで技術と関わろうとする態度	○課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力	○課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行・試作等を通じて解決策を具体化（設計・計画）する力
	○自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度	○課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力	○課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力
態度	○自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度	○自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度	○自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度
	○知的財産を創造・保護・活用しようとする態度	○技術に関わる倫理観	○粘り強く物事を前に進める態度



現行学習指導要領

A 材料と加工に関する技術

- (1) 生活や産業の中で利用されている技術
- (2) 材料と加工法
- (3) 材料と加工に関する技術を利用した製作品品の設計・製作

B エネルギー変換に関する技術

- (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検
- (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品品の設計・製作

C 生物育成に関する技術

- (1) 生物の生育環境と育成技術
- (2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育

D 情報に関する技術

- (1) 情報通信ネットワークと情報モラル
- (2) デジタル作品の設計・制作
- (3) プログラムによる計測・制御

検討事項

技術分野の見方や考え方

生活や社会で利用されている技術について、物質、生物、エネルギーや情報の特性に着目するとともに、問題を発見し、解決するに当たり、倫理観をもち、安全性、社会からの要求、環境負荷、費用等を踏まえつつ、技術を評価し、最適なものとなるよう考察すること

「論点整理」における指摘事項

- ・技術を適切に評価・活用し、安心・安全な生活の実現に貢献できる力
- ・技術を創造し、よりよい社会を構築できる力
- ・育成すべき資質・能力の明確化
- ・技術に関する科学的な理解
- ・技術と社会・環境との関わりの理解の充実
- ・プログラミングや情報セキュリティ等も含めた情報活用能力の育成等の充実
- ・小学校図画工作科、高等学校情報科、職業に関する教科・科目等との関連

関連する会議における提言等

- 世界最先端IT国家創造宣言（平成27年6月30日一部改訂）：初等・中等教育段階におけるプログラミングに関する教育の充実に努め、ITに対する興味を育むとともに、ITを活用して多様化する課題に創造的に取り組む力を育成する。
- 成長戦略の進化のための今後の検討方針（平成28年1月25日 産業競争力会議）；第4次産業革命に向けて、異なる多様な知を結びつけながら新たな付加価値を生み出す創造的な活動を行うことができる人材を育成することが必要
- 知的財産推進計画2015（平成27年6月 知的財産戦略本部）：青少年の知財に対する意識と知識を向上させ知財人材の裾野拡大につなげるべく、小中高等学校において知的財産に関する教育の推進を図る

今後の方向性(案)

目指す資質・能力等

- 技術についての基礎的・基本的な知識・技能
- ・技術に用いられている科学的な原理・法則の知識
- ・技術を安全・適切に管理・運用できる技能
- ・技術の概念及び、技術と生活や社会、環境との関わりの理解

○生活や社会における問題を、技術を選択、管理・運用、改良、応用するなどして、解決できる能力

- ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見出し、解決すべき課題を設定する力
- ・課題の解決策を条件を踏まえて構想し、試行・試作等を通じて解決策を具体化する力
- ・課題の解決結果及び解決過程を評価し改善・修正する力
- ・課題の解決策を製作図、流れ図、作業計画表等に表す力

○適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度

- ・進んで技術と関わろうとする態度
- ・自分なりの新しい考え方やとらえ方によって、解決策を構想しようとする態度
- ・自らの問題解決及びその過程をふり返り改善・修正しようとする態度
- ・知的財産を創造・保護・活用しようとする態度、技術に関する倫理観、粘り強く物事を前に進める態度

学習プロセス

既存の技術の理解と課題の設定

↑過程と修正の評価 ↓

技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画

↑過程と修正の評価 ↓

課題解決に向けた製作・制作・育成

↑過程と修正の評価 ↓

成果の評価と次の問題の解決の視点

A 材料と加工の技術

- 生活や社会を支える材料と加工の技術
- 材料と加工の技術による問題解決
- 社会の発展と材料と加工の技術

B 生物育成の技術

- 生活や社会を支える生物育成の技術
- 生物育成の技術による問題解決
- 社会の発展と生物育成の技術

C エネルギー変換の技術

- 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術
- エネルギー変換の技術による問題解決
- 社会の発展とエネルギー変換の技術

D 情報の技術

- 生活や社会を支える情報の技術
- コンピュータ・ネットワークによる問題解決（プログラミングによる動的コンテンツ作成）
- 機器の自動化による問題解決（プログラミングによる計測・制御）
- 社会の発展と情報の技術

※ 1年の最初に扱う内容の「○生活や社会を支える技術」は、3年間の技術分野の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容としても指導する

※ 3年で取り上げる内容の「○技術による問題解決」では、他の内容の技術も含めた統合的な問題について取り扱う

○技術による問題解決

○社会の発展と技術



評価の観点 (論点整理)	個別の知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高等学校 家庭	知識・技能 生活を科学的に理解し, 自立した生活者に必要な技術についての知識・技能を身に付けている。	思考・判断・表現 家族・家庭や社会における生活の中から問題を発見して課題を設定し, その解決のために, 生活を科学的に探究し, 生涯を見通して生活を創造する能力を身に付けている。	主体的に学習に取り組む態度 自立した生活者に必要な知識・技能を主体的に身に付けたり, 地域社会に参画し, 共に支え合う社会の実現に向けて, 家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を身に付けたりしている。
中学校 技術・家庭 (技術分野)	生活や技術についての知識・技能 生活や技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付け, 生活と技術との関わりについて理解している。	生活を工夫し創造する能力 生活の中から問題を見出して課題を設定し, その解決を目指して工夫し創造している。	主体的に実践する態度 生活や技術に関する知識・技能を主体的に身に付けたり, 生活を充実に向上するために進んで実践しようとしていたりしている。
(家庭分野)	生活や技術についての知識・技能 生活や社会で利用されている技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付け, 技術と生活や社会, 環境との関わりについて理解している。	生活を工夫し創造する能力 生活や社会における技術に関わる問題を見出して課題を設定し, その解決を目指して, 技術を評価, 選択, 管理・運用, 改良, 応用している。	主体的に実践する態度 進んで技術と関わりようとするともに, 主体的に技術に関する知識・技能を身に付けたり, よりよい生活や持続可能な社会を構築するために適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとしていたりしている。
(家庭分野)	生活や技術についての知識・技能 家庭の基本的な機能について理解し, 生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに係る技術についての基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	生活を工夫し創造する能力 家族・家庭や地域の生活の中から問題を見出して課題を設定し, その解決を目指し, これからの生活を展望して生活をよりよくするために工夫し創造している。	主体的に実践する態度 衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を主体的に身に付けたり, 地域の人々と協働し, 生活をよりよくするために進んで活用し, 実践しようとしていたりしている。
小学校 家庭	家庭生活についての知識・技能 日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	生活を創意工夫する能力 日常生活の中から問題を見出して課題を設定し, その解決を目指して生活をよりよくするために考え工夫している。	主体的に実践する態度 衣食住や家族の生活などに関する知識・技能を主体的に身に付けたり, 家族の一員として, 生活をよりよくするために進んで活用し, 実践しようとしていたりしている。